

- 25:1 シュアハ人ビルダデが答えて言った。
 25:2 主権と恐れとは神のもの。
 神はその高き所で平和をつくる。
 25:3 その軍勢の数ほどのものが
 ほかにあろうか。
 その光に照らされないものが
 だれかいようか。
 25:4 人はどうして神の前に
 正しくありえようか。
 女から生まれた者が、
 どうしてきよくありえようか。
 25:5 ああ、神の目には
 月さえも輝きがなく、星もきよくない。
 25:6 ましてうじである人間、
 虫けらの人の子はなおさらである。

ビルダデは正しいことを言っていますが、それは一部でしかありません。エペソ書には「2:10 私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。」とも書かれています。

確かに私たちは聖なる神の前にはうじ虫のような存在ですが、しかしまた愛の神は、エペソ所にあるように「2:8...恵みのゆえに、信仰によって救」ってください、尊い行いができ意義のある人生を歩むようになったのです。

偏った人間観を持たないように気をつけましょう。また自分の存在や人生が尊いものであることを感謝し、そのように生きていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

